



さくらちょうしょう

桜町小だより

「緑と笑顔がいっぱい桜町小」

児童数 318名

令和8年7月号 令和8年7月1日発行



振り返る

～ 学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ 桜町小の子 ～



校長 齊藤 敦史

一日の最高気温が30℃を超え、夏のような暑い日があったかと思えば、月末は台風や大雨により、20℃を下回る肌寒い日が続くなど、先月は体調管理の難しい1か月となりました。早いもので1学期も残すところあとわずかです。そのような中、さくらっ子の皆さんは、学期末、そして夏休みに向けて、毎日を元気に過ごしております。

さて、連日報道されているサッカー日本代表の活躍に、胸を熱くされている方も多いのではないのでしょうか。世界の強豪を相手に、最後まで諦めず、仲間と声をかけ合いながら戦う姿は、多くの人々に勇気と感動を与えてくれます。しかし活躍の裏には、日々の地道な努力、思うようにいかない経験、そしてそれを乗り越えてきた積み重ねがあることはいまでもありません。開幕前、森保監督が記者会見で話していた「前回大会で得た反省や課題を真摯に受け止め、それら一つひとつを克服した結果、4年後の今がある。」という発言がとても印象的でした。実はこうした姿勢は、学校という「小さな社会」で、日々様々な出来事に遭遇し、その解決や対処に向けて試行錯誤を繰り返しながら成長している子供たちの姿とも重なるものがあります。

今学期を振り返ると、日々の学校生活はもとより、様々な行事を越える度に子供たちは目覚ましい成長を遂げました。芸術鑑賞会や音楽鑑賞教室ではホンモノに触れ、修学旅行では雄大な自然や歴史的文化遺産を目にしました。社会科見学では集団行動やマナーを学び、全校遠足では、低・中・高学年ごとにねらいは異なりますが、いずれも異学年との交流を深めたことで、コミュニケーションやより良い人間関係等の社会性が育まれました。何より、年齢や考え方が異なる仲間と関わり、時に意見の相違があっても、対話し、折り合いをつけながら日々を過ごす繰り返しが、子供たちを大きく成長させています。学校という「小さな社会」ならではの価値がここにあります。もちろん課題も見られましたが、実施したことで得られた一人ひとりの確かな成長は、大きな成果と捉えております。

そのうえで大切なのは、今日までの歩みを「振り返る」ことと考えます。できた・できなかったという結果だけに留まらず、頑張った過程やうまくいかなかった原因等、当時を思い出しつつ、自分なりに整理して考えることで、気づくことも多くあります。そして、ではどうすれば良かったのか、改善策まで見い出せれば、次回はもっと素晴らしい結果になることでしょう。学期末を迎える今、この3か月間を振り返ることで、自身のさらなる成長『一歩前進』に繋げてほしいと願います。

長かった1学期も、残すところあと12日。さくらっ子は、様々な行事を逞しく乗り越え、日々の学校生活でも多くを学び、豊富な体験で心も身体も大きく成長しました。あと数日の登校で、間もなく夏休みを迎えます。

一方、子供たちにとっては、この期間ならではの「体験」もあります。サマースクールと共に、地域の皆様や市の各施設でも、夏休みに様々なイベントを計画して下さっております。積極的に参加し、多くの方々と交流を図るなど、様々な体験を行うことで、学校ではできない学びも得て、一層の成長をしてほしいと願います。

夏休みこそ「学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ さくらっ子」の思いを共にし、今後も、本校教育活動へのご理解・ご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。